



2011 August No.211
百万石蝶談会

翔

庭で越冬していたツマグロヒョウモン

浅地 哲也

庭のどこかで越冬していたと思われるツマグロヒョウモンを見つけたので報告する。例年この時期になると成虫が観察され始めるが、今冬は積雪が多く厳しい冬だったせいか、生長は遅れている。

2011年5月2日 石川県金沢市御影 1 幼目撃 浅地哲也

2011年5月9日 石川県金沢市御影 1 蛹目撃 浅地哲也



《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-7》

白山「馬のたてがみ」でエルタテハを目撃

松井 正人

石川県では観察記録の少ないエルタテハを、白山観光新道途中にある馬のたてがみで目撃したので報告する。

2009年8月3日に、白山頂上の社付近を巡回するチョウを目撃し、粘ったあげくヒオドシチョウと確認し、エルタテハの観察を待ち望んでいたところ、翌日に、白山観光新道途中にある「馬のたてがみ」で、エルタテハを9時50分頃と12時10分頃の2度目撃した。「馬のたてがみ」の標高はおおよそ2200m、真砂坂とも呼ばれ、広い稜線には360度の絶景と一面のお花畑が広がっている。エルタテハは、2度とも湯谷側から飛来し、花に一瞬止まっ

た後、甚ノ助谷側へ飛び去った。当日は無風快晴で、手の甲の皮がむけるほどに日差しが強かった。

■2009年8月4日 石川県白山市白山馬のたてがみ 松井正人目撃

エルタテハ	2頭	ベニヒカゲ	多数
ウラギンヒョウモン	1頭	クモマベニヒカゲ	多数
アサギマダラ	10頭	ヒメキマダラヒカゲ	2頭

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2009年蝶類採集（観察）報告

指田 春喜

2009年は、2月と6月に「急性膵炎」でともに3-4週間の入院を余儀なくされた。そこで、国内外とも採集回数が少なかったが、ほぼ30年ぶりで夏の北海道でネットを振った。

■ 滋賀県日野市（蒲生郡日野町）竜王山（alt. 826 m） 2009年4月12日

この5日間ほど全国的な晴天で桜前線も一気に北上した。兼六園の桜も満開となったようである。気にはなっていたが、金曜日の夜も8時まで仕事が片付かなくて、ギフチョウ・モードに入れないうちに、土曜日を迎えてしまった。過去の採集データなどを抱えて布団に入ったが、ろくに開かないうちに寝入ってしまう夜が続いた。

中京地区も既にピークを迎えているはずであるが、どこに行けば良いのかも決められず、取りあえず名古屋の息子のところに行くことでカミサンをその気にさせ、前夜出発した。

何度か道を間違え、地元の人に道を尋ねて、やっとのことで午前10時に竜王山の麓の「西明寺（さいみょうじ）」に到着。分かりにくい登り口を間違え、やっとのことで急な登りを歩き始める。30分で山頂に着くも4人いた採集者が一応に「目撃できず。」どうも乾燥化が著しいのと、鹿が増え過ぎたことによるカンアオイを含めた下草減少が原因らしい。そういえば山肌に草が全くなく、乾燥している。午後1時過ぎ、あっさり諦め、持参のコンビニ蕎麦の昼食後、帰途に就く。

■ 石川県白山市白峰赤谷 2009年4月19日 スギタニルリシジミ 4♂

午前9時、小赤谷との分岐に着く。すでに採集者らしき数人が入っている。久しぶりに会員の嵯峨井氏に会う。昨日も当地にきたらしく、近況・情報交換。虫より虫屋の方が多そうなので、午前10時、以下に転戦。

■ 石川県白山市白峰 2009年4月19日 ギフチョウ 5♂

クルマで登れる最奥地点付近の杉がこの数年で大きく生育した。下草・藪も背丈以上になっており、斜面の上部には登りにくい。しかたなく道沿いに下ると間もなく3♂をネット。その後はやや気温が高く、サッパリ。午後1時過ぎ、一里野温泉付近（ブナオ観察舎）でギフを狙うがそう簡単に思うようにはいかない。ブナオ観察舎前にウスバサシンはたくさんあり、これを食すギフがいれば面白いのだが。

■ 北海道 2009年7月12-20日

7月13日、新日本海フェリーで新潟港を12日、定刻の午前10:30に出港。ほとんど揺れを感じさせない穏やかな船旅であったが、明けて早朝の小樽港は雨であった。道東道を夕張まで走り、R274号で日高に出た。この「石狩樹海ロード」を千栄（ちさか）からチロロ川沿いに入るが雨でどうにもならなかった。多くの林道にはゲートがあり、施錠されている。「日高営林署」で鍵を借りる必要あり、「昆虫調査」の名目で入林可能。雨も止みそうになく、十勝の街中、蕎麦屋「目分量」で昼飯。予約しておいた新得町「サホロユースホテル」に投宿。なお、採集データは、文末にまとめた。

・糠平スキー場、十勝三股 2009年7月14日 朝のうち曇りのち晴れ

曇り空ながら雨は上がっていた。R274、R85で午前9時過ぎには然別湖畔に到着。対岸では遊覧船の下船はできないとの返事に「東雲湖」行きを中止、R273を北上。糠平スキー場あたりまで来たときには、天候はかなり回復して来、道路脇で採集。シロオビヒメヒカゲ、ホソバヒョウモン、ウラジャノメ、エゾシロチョウなどを1時間半ほど採る。シロオビヒメヒカゲとヒメウラナミジャノメが紛らわしい。

30年前に初めての北海道での採集時、北海道の高山蝶が欲しいのは当然であったが、採集禁止地域ではネットが振れないので、大雪山を敢えて避けた。幌尻岳にダイセツタカネヒカゲを狙ったが、一発勝負で採れるほど甘くはなかった。次に「音更山」に登るべくJRの駅「十勝三股」で下車したことを思い出す。駅周辺が好採集地であったが、今ではその駅もR273「糠平国道」のどこにあるのかも分からず、通り過ぎてしまう。国道沿いでオオイチモンジを振り逃がす。「ルピナス群生地」を過ぎ、左手の林道に入る。ホソバヒョウモンとコチャバナセセリが多いだけであったが、帰り際にカラフトタカネキマダラセセリがやっと1頭採れた。発生時期は過ぎているのであろうが、割と新鮮であった。大雪湖から層雲峡に入り、ペンション「山の上」に投宿。

・2009年7月15日 ほぼ一日中雨

前夜は、宿のご主人高橋賢一氏から色々と情報を得、上川営林署で入林届けを出す。既にオオイチモンジも出始めたらしい。このときに入り口ゲートの鍵のナンバーを教えてく

れる。しかし天候が優れず、カミサンの提案で、またも旭山動物園に行ってしまう。その後、市内で食料品を仕入れ、道の駅「当麻」で野営、先住者5-6組あり。

・2009年7月16日 丸瀬布町オロピリカ沢 曇り一時晴れ

明け方近くまでかなり激しい雨であった。本州の採集地と違い、この時期天候が悪いと気温はまったく上がらない。それでもオオイチモンジの豊産地である当地、丸瀬布の環境を観ておきたくて来てみた。オオイチモンジは、本州でもある程度気温が高ければ、多少の雨でも活動するのでオロピリカ沢に入った。しかしながら、陽が差し込まない林道は、気温も低く、蝶の姿はなかった。林道の手前の開けたところに架かる橋（名前は忘れた）のためとでウラジャノメを採集、帰り際にオオイチモンジ♀の勇姿を高く眺め、納竿。

・2009年7月17日 遠軽町向遠軽 曇り

アサマジミ狙いでこんな遠くまで来たが、天気には勝てなかった。オホーツク海に寒気団（低気圧）があるとこの地域では気温が上がらず、少し内陸に入った丸瀬布では晴れの場合もあるという（自衛隊演習地内のアサマポイントで会った地元の虫屋談）。採集圧で激減した(らしい)残されたアサマのピンポイント生息地にこのまま居残っていてもしょうがなく、丸瀬布に移動。

・2009年7月17日 丸瀬布町オロピリカ沢 曇り

層雲峡に戻るかどうか散々迷ったが、もう一日、明日があるので、今日は当地に入ったが、これがまったくの「読み違い」であった。案内書にあるオオイチモンジの産地を回るが、天候には勝てず、前日採集種の数をいくつか増やしたただけの一日で終わってしまった。

R39 の石北峠を越えて、大雪湖を望むところに来て見ると、こちら側はまったく天気が違う。快晴であった。時間はすでに午後4時半を過ぎており、後の祭りであった。層雲峡の駐車場で野営。

・2009年7月18日 上川町 層雲峡 曇り時々晴れ午後曇り

毎日天気予報が気になり、注意をして見ているが、今年の北海道は天候不順である。これまで、本州が梅雨でうっとうしいときに、北海道では梅雨がなく、清々（すがすが）しい天候が続くといわれてきたが、最近はそのが少し違うらしい。“蝦夷梅雨”なる言葉もあるらしい。昨日の夕方の天気予報では、かろうじて午前中は晴れ間も覗くらしいが、午後からは天気は崩れ、明日以降は雨らしい。最近の天気予報はかなりの確立で当たる。いずれにしても午前中が勝負である。

ゲートを入り、ニセイチャロマップ林道を遡る。3つ目の比較的大きな橋に陣取る。雨の心配はなさそうだが、曇ったり晴れたりといったところである。川が開けており、ポイ

ントが絞りにくい、オオイチのポイントらしい。突然目の前に現れるが、バックの深い緑に同化してしまい、黒っぽいオオイチは見難い。ヒメウスバシロ、ホソバヒョウモン、ヒメシジミ、イチモンジチョウなどを採りながら、オオイチモンジの現れるのを待つわけであるが、結局、3度ほどあったネット・チャンスをことごとく振り逃がしてしまった。どうも本州でのこれまでのオオイチの感覚と様子がちがう。午後1時過ぎ、完全な曇り空となり、終了。帰り道、R273 を新得に向かう途中、後学のために「ユニシカリ林道」を見るべく、入口を捜したが分からずじまいであった。三国峠にさしかかると、雨が降り出した。「サホロユースホテル」泊まり。

・2009年7月19日 雨

来たときとまったく同じルートで小樽に向かう。行きにダメであったチロロ川でのツマジロウジャノメ、カラフトタカネキマダラセセリを期待したが、土砂降りである。「日勝峠」では気温が10度ほどしかなかった。行きに借りたチロロ川上流に入るゲートの鍵を日高営林署に返却し、小樽に向かう。市内で卒業生二人に会い、午後7:30、フェリーは定刻に出航。

余談ながら、この採集と時期を同じくして、トムラウシ山中で中高年登山客の遭難事故があり、サホロユースホテル近くの新得町の体育館が遺体安置所になっていた。

採集品リスト

ヒメウスバシロチョウ	3♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ミヤマカラスアゲハ	1♂	7.14	糠平スキー場
エゾシロチョウ	6♂	7.14	糠平スキー場
〃	1♀	7.14	十勝三股
〃	1♀	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢
モンシロチョウ	1♂	7.14	十勝三股
エゾスジグロシロチョウ	1♂1♀	7.14	十勝三股
〃	1♀	7.14	糠平スキー場
〃	1♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
スジグロシロチョウ	1♀	7.14	糠平スキー場
オオイチモンジ	2♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
イチモンジチョウ	2頭	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ミスジチョウ	1頭	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
〃	1頭	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢林道
ホソバヒョウモン	28♂3♀	7.14	十勝三股
〃	4♂	7.14	糠平スキー場
〃	2♂	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢
〃	10♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道

カラフトヒョウモン	1♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
メスグロヒョウモン	1♂	7.14	十勝三股
ウラギンヒョウモン	1♂	7.14	糠平スキー場
ギンボシヒョウモン	1♂	7.14	糠平スキー場
”	1♂	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢林道
”	5♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
シータテハ	1頭	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢林道
”	1頭	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
コヒオドシ	2頭	7.14	十勝三股
サカハチチョウ	2♀	7.14	糠平スキー場
”	1♂	7.14	十勝三股
”	1♂	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢林道
”	1♂1♀	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ヤマキマダラヒカゲ	1♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
サトキマダラヒカゲ	1♂1♀	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
”	1♀	7.14	十勝三股
ヒメキマダラヒカゲ	1頭	7.14	十勝三股
ヒメウラナミジャノメ	3頭	7.14	糠平スキー場
”	2頭	7.14	十勝三股
”	1頭	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ウラジャノメ	1頭	7.14	糠平スキー場
”	4頭	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢
クロヒカゲ	1頭	7.14	糠平スキー場
”	1頭	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢
シロオビヒメヒカゲ	7頭	7.14	糠平スキー場
ウラゴマダラシジミ	1♂	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ヒメシジミ	2♂3♀	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
ベニシジミ	1♂1♀	7.14	糠平スキー場
コチャバネセセリ	18頭	7.14	十勝三股
”	3頭	7.14	糠平スキー場
”	2頭	7.18	層雲峡ニセイチャロマップ林道
カラフトセセリ	2頭	7.16	丸瀬布町オロピリカ沢
カラフトタカネキマダラセセリ	1♂	7.14	十勝三股

■ CANADA Newfoundland and Labrador St. John' Signal Hill, 2009年8月2日 曇り

当地で開催される学会に参加すべく、成田からNew York 経由で来たが、トラブルがありNYで1泊するはめになり、余計に遠く感じた。当地入りした翌日は天候不順と疲れで休養。街はずれに、ちょっとした観光スポットの「ガボット・タワー」があり、この海に張

り出した丘に来てみた。海沿いの丘の常で、風が猛烈に強く、思うようにネットが振れない。飛ばされるように飛ぶ(?) *Colias* には逃げられた。スゲの仲間にしがみついているセセリは、何と云うことか、2週間前に北海道で採ったカラフトセセリであった。

数年前に本会員H氏が多数(200頭以上)採集したこのセセリの軟化展翅を引き受け、家の標本箱には十分量(約70頭)があるので、当方にとっては初めての種にもかかわらず、先の北海道でもほとんどネットに入れなかった。カナダでは亜種が異なるかもとの僅かな望みで採集したが、帰国後調べたが残念ながら同一亜種であった。それでも数頭は開いた。

帰り際に素早く飛ぶタテハをネットしてみると、ヤンキーコヒオドシであった。その他にはシロチョウが観られ、少し期待したが、モンシロチョウであり、これまた残念!栽培種があるような耕作地ではない。野生種に依存しているのであろうか。いずれにしても植生が単調であり、期待は出来なかった。

その後は、かなり真面目に本来の仕事である学会に参加、帰りにTorontoで2泊し、NIAGARA fallsで「お上りさん観光」をやり、8月11日帰国。

■SLOVENIA Bled, 2009年9月20-23日

昨年、ベルギーのアントワープで誘われていたが、どうしようか迷っていたら、先月のカナダ、セント・ジョーンズの学会でもこのスロヴェニアの大御所化学者に会い、参加を決めてしまった。採集は無理であろうと端から期待はしてなかったが、いつもの30cmのスプリング・ネットを忍ばせた。

時期が良かったのであろうか、スロヴェニアのブレッドという小さな湖があるここは、居心地が良かった。観光シーズンでもなかったのであろうか、日本人とは、隣のクロアチアと一緒に1週間のツアーで回るらしい団体にブレッドで1度出会っただけであった。

日中は、日差しがあれば、半袖でもよい気候であるが、朝晩は肌寒く、時期的にも蝶のシーズンは終わっていた。湖畔を散策した折、ジャノメの仲間を1頭ネットしただけで、他にも目撃できたチョウはほとんどなかった。

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

表紙のむし -シタベニハゴロモ-

2009年8月、現地からの通報を受けて見に行った虫は、見たことのない鮮やかな色彩のハゴロモの仲間だった。「やっかいな物が見つかったな」と思ったのが第一印象で、その成虫は木の幹に群生し、数年以上前から発生していたことは容易に想像できた。同時に、「この外来と思われる昆虫をどう扱ったら良いか」と考え始めた。あれから2年が経ち大きな問題もなく、本種発生について最低限の報道がなされ、発生報告を書き、生活史もほぼ解明できたので安堵している。 富沢 章

シラキトビナナフシの孵化殻外し

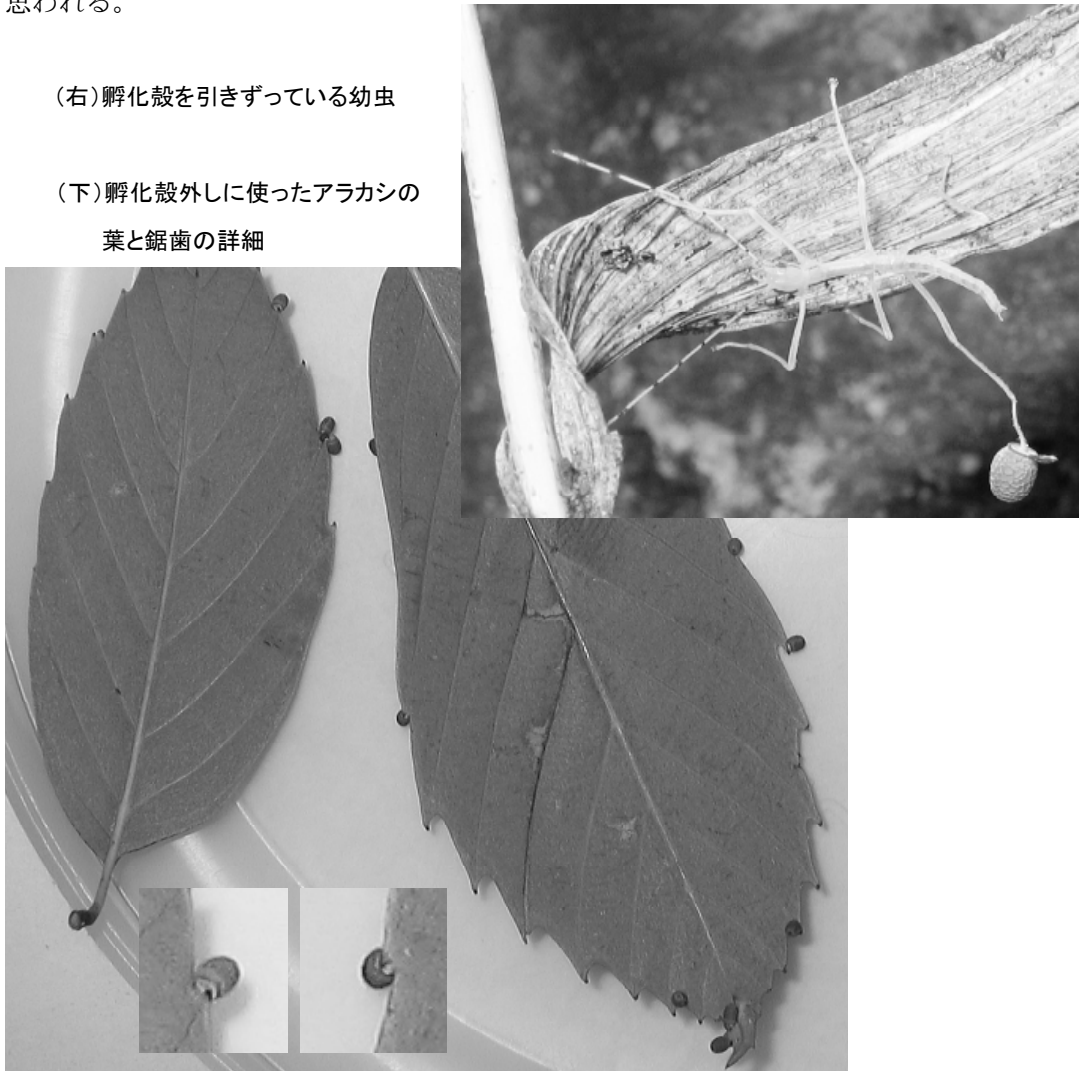
松井 正人

シラキトビナナフシの孵化容器に、湿度調節の為にアラカシの葉を入れている。たくさんのシラキトビナナフシが孵化した日、アラカシの葉の縁に鈴が付いているかのように、たくさんの孵化殻が付いていた。葉に触れると、孵化殻はぱらぱらと落ちたが、残った孵化殻を見ると、鋸歯の部分に付いていた。

シラキトビナナフシの生卵を乾燥気味に保管すると、翌春に孵化する個体には片足に孵化殻を引きずっているものが多い。飼育する間に足から孵化殻が外れているので、自然と外れるものと思っていたが、どうやら幼虫は積極的に外しているらしい。観察はしていないが、賢い幼虫は、孵化殻が通りぬけられない隙間に足を入れて引っ張り、外していたと思われる。

(右) 孵化殻を引きずっている幼虫

(下) 孵化殻外しに使ったアラカシの
葉と鋸歯の詳細



《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■怪しげなオーラ

5月中頃、某所へクモツキ観察に出かけた細沼氏、構えているときには姿は見せず、油断しているときに限って姿を見せる妖精に翻弄される。誰しも構えてしまうと立ち上る怪しげなオーラ、あなたはどこまで消せるだろうか。

■シルビア調査隊始動

昨年、能登半島でシルビアシジミの発生地を探し回った面々は、5月下旬に活動を再開。まずは、昨年の観察地で今年の発生状況を確認し、新たな観察地発見に向けて動き出した。

■コブナナフシが来た

石垣島産のコブナナをもらった。とぼけた顔に人気があり、見ていて飽きない。ほとんど動かず、生きていますのか死んでいるのか分からないが、コナラについての食痕で、生きていますのが確認できた。

■アサギマダラと競争

6月5日、三ツ子浜を皮切りにマーキングしながら狼煙へ向かう。狼煙に着いたのは10時10分で、移動速度は6.5km/h。そのうち、途中でマークしてきたアサギが相次いで到着。赤神からきたアサギは4.3km/h、三ツ子浜のアサギは5.5km/hだった。

■共通マークは「YMS」

6月8日から6月10日にかけて台湾陽明山国家公園の大屯山で、日本台湾合同調査が行われ、1990頭のアサギマダラにマーキングされた。すべてのアサギには、共通の「YMS」と「日付」が入っている。

■シタバニハゴロモ

2009年に日本で初めて発生が観察された小松市のシタバニ、2010年は甘露を含んだ大量の排泄物で、下草はスス病で真っ黒になっていたが、今年の観察数は急激に減少している。ビワハゴロモ科のハデハデ容姿、観察希望の方は、お早めに。

■不死身のスナビキソウ

海岸マーキングにスナビキソウは欠かせないが、繁茂するとハマヒルガオやハマエンドウ、ハマニンニクなども成長しだし、3年程で置き換わってしまう。ところが、大波でごっそり砂が削られると、深部に埋まっていたスナビキソウの根がむき出しになり、復活が始まる。

■危機的状況のイカリモンハンミョウ

生息数が極端に減っているイカリモンの生息地保全を、石川県に要望しているが動きが鈍い。6月28日に昆虫館職員が個体数調査を実施したが、4kmの海岸で観察できた数は、もはや風前の燈。

■寂しいのは年のせい？

独り薄暗い森で採集していると、寂しいと言うか切ない気持ちだが、こみ上げるようになってきた。昔は独りの方が気楽で好きだったのに、今は誰かと出かけ、会話をしながら採集するスタイルが変わってきた。

■今年はゼフも遅れぎみ

医王山馬の背の主ことS氏、6月22日になってようやくフジを採集。早い年では10日頃から見られるので、季節はまだ1週間から10日程度遅れているようだ。

■小松市大杉でヒメボタル観察会

7月9日ヒメボタルの観察会。飛翔数はわずかで、地上徘徊数の方が多かった。飛翔部隊はヒメのオス、地上はヒメのメスと、オバヤクロマド等の幼虫との混成部隊か。

■遠いところへ行った友達

ふっと思い出す楽しかった採集会。捕れない虫が袋にひしめいている。「えっ」と思う採集法でいつもミラクルを見せてくれた。今は何処で活躍してるのだろうか。できることなら、一緒に採集に行きたい。また、ミラクルを見せてくれるだろうか。

■ 例会の記録 ■

6月9日(木)浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

現在実施中の海岸アサギマーキング作戦について、松井氏が報告。北上アサギは、5月21日から観察され始め、今日までのマーク数は約600頭で、飛来数は多い。今年、佐渡の大脇氏が参加するので、能登-佐渡の移動が確認される可能性が高い。

その他の話題は、犀川ダム近くでクジャ

クチョウを採集、見出しは昆虫館の変わり者、ギフチョウ飼育で虫屋を育てる、シルビア初観察は5月24日、野鳥の会仕様の折りたたみ式長靴、などなど。

参加は、竹谷、浅地、松井、浅野、大宮、山岸、長田、福富の8人。

■ 例会の記録 ■

7月7日(木)浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、松田氏のスライドショー。今年5月に与那国の西條氏と出かけたバリ・スラウェシで撮影したオオルリオビアゲハやベッコウトンボなど、色とりどりのチョウやトンボがスクリーンに舞った。

その他の話題は、ムラサキシジミの幼虫採集は今、海岸アサギのマーク数は千頭を超えた、永平寺のラミーカミキリ、独りの採集に寂しさを感じる年頃、岩間の山崎旅館は今年も閉じたまま、などなど。

参加は、松田、竹谷、長田、浅地、松井、大宮、井村の7人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

浅地哲也：庭で越冬していたツマグロヒョウモン	1
松井正人：白山「馬のたてがみ」でエルタテハを目撃	1
指田春喜：2009年蝶類採集（観察）報告	2
松井正人：シラキトビナナフシの孵化殻外し	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 211号

Tobu 2011年8月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



撮影/松井正人



撮影/松井正人

撮影/小幡英典